

# 吉田統括監だより

## 第2号

**Q** どうして、地方創生の主役が『町民』なの  
でしょうか？

**A** ヒントは英国でのEU離脱・残留『国民投票』  
です。

町民の皆様こんにちは。  
地方創生担当統括監の吉田です。一気に暑さが厳しさを増してきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。体調など崩されぬようご自愛ください。

さて、統括監日より第1号に掲載した通り、総合的に地域を元気にする目的で始まった国家的プロジェクト『地方創生』成功の大前提として『町民が主役になれるか否か』であると提言しましたが、それでは、なぜ町民が主役でなければならぬのかを皆さんで考えてみましょう。

『薩摩藩』と非常に縁が

深い『英国』の昨今の国内状況を例にとり説明します。

現代日本が採用している政治体制は『議会制民主主義（間接民主主義）』ですが、特に酷似しているのが英国です。成熟した民主主義国家である英国では、普段は日本同様に行政機関や国会議員が専ら国政を担っています。が、国の未来を左右する重大課題に関しては『国民』と共に考え、決める姿勢を明確にしています。

今回の国民投票結果のように、それが為政者にとって都合の悪いことでもです。結果的に国を二分する

大激論になりましたが、若者から高齢者まで真剣に『国の未来』を考え、投票行動に及んだのです。つまり、英国民は英国の未来を『自分ごと』として捉えたのです。

翻って考えてみましょう。『錦江町』の未来を『自分ごと』として考える機会があるでしょうか？

ちなみに、我が身を振り返ってみると、大変恥ずかしいことですが、母が一人暮らしをしている我が故郷『秋田県三種町』の未来を『自分ごと』として考えたことが、一度もありませんでした。

そのことは、私にもそして町にも課題があったと言わざるを得ません。

『三種町』について言えば、町側が様々なチャンネルで町の現状や取組みを理解してもらおう努力を行い、かつ町民の想いや意見

を受け止め、咀嚼する必要があると考えています。

そして、私も含め『三種町民』について言えば、『やってみよう』『請願・陳情』等の一方的依存型では無く、主体的に政策提言し、役場と協働実践するなど、新たな形の公共を担えるよう、考え方を大きく変える必要があると確信しています。

さて、今回、町広報別冊版で紹介している『みんなんで考えよう!! 20●●年の『錦江町』想像・創造コンテスト』ですが、単なるコンテストではありません。ちなみに主な特徴は次の通りです。

1) 参加年齢制限を設けていません。

お子様からご高齢者まで町の未来を考える『権利』を有していると判断したからに他なりません。是非、お仲間で、ご夫婦で、親子で『町や地域の未来』を一緒に考えてもらえたら幸いです。

2) 想像した未来に近づくために、役場や町民がそれぞれ何をすべきかを考えてもらいます。町の未来を実現するためには、町民と行政が役割を明確にした上での協働実践がとて重要です。

3) 秀逸な応募内容については、本人同意の上統括監として責任を以て政策提言をします。

以上、多くの方々から『町の未来』が寄せられることを心待ちにしております!!